

北海道理学療法士会 道北支部NEWS

第149号

発行者：齊藤浩平

編集者：鈴木優太郎、谷口絵梨佳

本日の内容

- 施設紹介（森山メモリアル病院）
- 過疎地リハビリテーション連絡会
- 学術大会のお知らせ
- 道北支部からのお知らせ
- 第4回道北支部役員会議議事録

施設紹介

森山メモリアル病院
理学療法士

高橋 拓巳 さん



当院は、回復期から維持期を中心とした療養型病院であり、リハビリテーション部はPT21名、OT16名、ST9名、リハ助手2名の合計48名で構成されています。回復期は運動器疾患、脳血管疾患、療養病床は廃用症候群、神経疾患等の患者様にリハビリを提供しています。

退院後の生活を支える在宅部門にもスタッフが40名以上配置され、医療・介護連携にも力を入れています。また、当法人は「家庭でできるリハビリテーションの会」を年に1回開催しています。スタッフによる演劇を通しての情報提供や患者様・利用者様の体験発表、また患者様やご家族同士の交流の場として30年以上継続しているものです。ここ数年は中止が続いていますが、地域貢献の一つとなっています。

私は4年目になりますが、回復期リハ病棟を経験し、現在は療養型病床と外来を担当しております。入職から様々な症例を経験でき、日々技術・知識の向上に努めています。まだ諸先輩方から学ぶ事も多くあり、より一層自己研鑽をしていきたいと思っております。

過疎地リハビリテーション連絡会

過疎地のリハビリテーション連絡会主催

過疎地の行政・地域包括等で働くリハ職の座談会

「過疎地のリハビリテーション連絡会」では北海道の医療過疎地で勤務するリハ職のネットワーク作りを目的に、これまでに調査や学会発表を行ってきました。この度は人口1万人未満の市町村の役場・地域包括等で勤務する4名の理学療法士（北海道理学療法士会ホームページより抽出）を対象とした座談会を2022年10月に開催しましたので、その様子をご紹介します。



病院勤務時代の介護予防事業等の経験から、仕組み作りに携わりたいと考え行政に転職しました。



中富良野町
役場・地域包括
田中大地さん



京極町
介護予防センター
古市香苗さん

京極町の元診療所長の論文に感銘を受け、診療所勤務を経て現職となり、介護予防事業を専任しています。

旭川の老人病院に勤めた後、和寒町役場に転職。業務の半分はケアマネ業務で、他に診療所の外来診療も行います。



和寒町
地域包括支援センター
中川絵里子さん



猿払村
地域包括支援センター
鈴木怜生さん

新卒で地元の猿払村に就職し、今年で6年目になりました。介護予防業務を中心に様々な経験をさせてもらっています。

司会「皆さん、お疲れ様です。本日はお忙しいところ『過疎地の行政・地域包括支援センター（以下、包括）等で働くリハ職の座談会』へのご参加ありがとうございます。座談会開催に至った経緯ですが『過疎地のリハビリテーション連絡会』では数年前から学会等で情報発信をされており、2021年の北海道理学療法士学会では過疎地のリハ職を対象とした調査について報告しました。皆さんにもご回答いただいたものがありますが、ここで行政等所属の方から『同業者との繋がりを期待する』との回答が非常に多く、加えて私達もその領域で働く方の実態がわかっていなかったこともあり、座談会を企画した次第です。どうぞよろしくお願います。」

「体に触れる」機会は決して少なくない…！

司会「まずは皆さんからお互いに聞きたいことはありますか？」

田中「皆さんは患者さんの体に触れる仕事、助言をする仕事の割合はどれぐらいですか？私は評価目的以外で触れることはほぼありません。」

中川「診療所の外来で関わるのは一日3人くらいで整形疾患が多いです。訪問で関わるのはCM業務、包括の生活実態把握業務としてですね。」

古市「通所介護の機能訓練はありますがごく数人で、総合事業C型（以下、C事業）も3か月限定ということもあり件数は多くないのが現状です。」

鈴木「個別評価、プログラムの処方を毎週1回30人くらい実施しています。それが毎週火曜、それと私が指導役で行う集団体操が木曜にあります。」

司会「保険診療外の業務に携わっている皆さんだったので『触れる』機会はもっと少ないのかと思っていましたが、意外と多いと感じました。特に鈴木さんは多人数を対象としていましたが、集まりが良い秘訣は何でしょうか？」

鈴木「行き場所がない人はここに来るしかない、というのが大きいでしょうか…。運動器疾患だけでなく認知症やうつなど様々な疾患、状態の方が参加しており、ここに来ることで活動機会が得られる方が多いです。」

田中「個別と集団の使い分けはどのようにしているのですか？基本チェックリスト等を使用しているのでしょうか？」

鈴木「集団は一般介護予防事業として実施していますが、個別の方は総合事業政策ができる前からの村独自の事業です。」

中川「村内に他に通所サービスはあるんですか？」

鈴木「通所介護はあり、包括のある施設内に小規模多機能サービスもあるんですが、それらの利用に至らなかった方なども私の事業に参加しています。」

中川「長く利用できるのは利用する側にとって幸せですね。でも小さい町だと場所やサービスが変わっても違和感なく利用できたりしますよね。」

司会「この辺は自治体の財政状況、あるいは医療・介護に限らずどの事業に財源を投入するのかで特色が表れるところかもしれませんね。」

介護予防のカタチも自治体で様々

田中「京極町からお話のあったC事業について質問させてください。中富良野町はC事業を実施していないのですが、京極町では介護保険の通所リハ・訪問リハとはどう区別して運用していますか？」

古市「やはりC事業は期間限定という特性があるので、『継続したリハ』とは違うんだという説明がまず必要になります。3か月でその人の生活目標を達成するということですね。それがその期間では難しい方もいますが、その場合も通所介護等に必ず繋げるという役割は意識しています。」

田中「なるほど。介護保険事業とC事業をどう差別化していくかのヒントになりました。社会参加に繋げるためにはどちらのサービスが効果的なのかとか、次のサービスに繋ぐ位置付けとしても機能するんだなというところが。」

中川「和寒町では平成19～21年まで訪問C事業を実施していました。当時はなかなか参加者がおらず、いても同じメンバーばかりで結局事業は終了したんですが、その参加者を中心に自主化したグループの立ち上げに至り、そういう点では意味のある取り組みだったかなと思います。」

司会「包括と介護事業所だけだと総合事業を積極的に進める動機付けが乏しいと日々感じますが、そこに介護予防センターが入ってくると『町のために進めようね』とプッシュしてくれるんだと、古市さんのお話を聞いて思いましたね。」

古市「何のために総合事業を行うのかを共有することは重要で、地域の様々な職種が同じ方を向くための会議体(地域ケア会議など)はあるのですが、やはり難しい仕事だと感じます。それが対住民となると尚更ですね。それでも私は介護予防に専念させてもらっている、その点は恵まれていると感じます。」

田中「もう一つ皆様にお聞きしたいのですが、総合事業B型(以下、B事業)を実践している自治体はありますか？」
一同「…。」

司会「ないようですね。」

田中「わかりました。実施している住民主体の活動をどのタイミングでB事業に移行できるのかについて聞きたかったのですが…。」

司会「中富良野町ではどの段階まで進んでいるのですか？」

田中「今年度から住民の指導役が行う運動教室が週2回行えています。他には、サロンのイベントで実施したりもしています。軌道に乗ってきたところなので次年度からB事業として実施できそうか検討しているところでした。」

司会「B事業に移行するメリットは、自治体としては交付金を得て運営できる点ですよね。住民側にはどういった影響があるのでしょうか？」

田中「自治体のメリットはその通りです。参加者については、チェックリスト対象者のみ該当になるのでこれまで参加していた人が参加できなくなる可能性はあります。」

司会「なるほど。これは私自身の課題でもあるのですが、終わりのあるサービスを運用していく難しさは皆さんどう感じていますか？」

鈴木「終わりがないと日々感じています。亡くなるか対象外になるか(しか終了にならない)。通うことが目的になっていますね。」

田中「そのような場合は『運動して帰るというルーティン』に陥っているんでしょうかね。CMやその他のサービスと協業して、我々の機能的な目標と、そこから先の他職種の役割分担を明確にすることで解決の糸口があるかも。」

古市「京極町では総合事業通所A型は利用基準と卒業基準を作っています。一度通ったらそこが居場所にはなってしまう方もいるんですが、次の行き場所は、いろんな人で知恵を出し合って利用期間中にマッチングしています。冬は閉じこもっちゃうから通所を利用してもいいけど、夏は畑仕事で頑張ってもらったり。それを広報したり。」

どんな企画をしても参加層がいつも同じ顔ぶれになる傾向はありますね(笑)。ただ、それでも多様な行き場を作る努力をするようにしています。」

司会「見習わなきゃいけないと思わされました！」

専門職であり行政職員である立場からリハ職へ伝えたいメッセージ

司会「それでは最後に、過疎地×行政等で働く立場から他のリハ職へ伝えたいことをお願いします。」

田中「リハの視点は我々にしかない反面、役場内で伝わらないことも多い。そのためには相手(のニーズ)に刺さるような関わりが必要だと考えています。そのために行行政職として町全体のことを捉えるように心掛けており、そのためには『目の前にいる個人を良くしたい』という思いを敢えてセーブする意識も持っています。制度設計においてPTがいることの意味をそのような思いで出そうとしているということを、民間で働く方にも理解してもらえるといいと思います。」

中川「最近では自分も施策作りに携わるようになり、その上で自分も変わらなくてはいけないという思いを持っています。同僚の医療職に言われたのが『PTの前に医療職であり、さらにその前にこの町の行政職なんだ』と。自分の専門性と、財政も含めた全体のバランスを考えていかなければいけないジレンマはありますが、立場の違いでやらなければいけないことはいろいろあるんだということを伝えたいです。」

古市「京極町で働き始めた当初は『町の介護保険料を下げたい!』という思いがありました。けれども実際には様々な要因が絡みますのでそう上手くはいきません。それでも、職場の同僚とは『町の高齢者に元気でいてもらおう!』というシンプルな思いで日々仕事をしています。リハ職がいる意義を住民に実感してもらえるようになればそれが成果になると思います。」

鈴木「新卒で包括で勤めることになり悩みも多かったですが、今は『住民が喜んでくれるのであればやってダメなことはない』というふうに考えるようになってきました。大切だと考えているのが行動に移すこと。まずやってみて、結果を振り返って次からどうしたら良いか考えればよいと、『仕事を自分で作っていかなければならない』と感じることでそう思うようになりました。新卒で過疎地で包括で勤務するという事は知識や経験など足りないと感じることもあるかもしれませんが、やってみたらできることも多いので関心がある若い人にはぜひ挑戦してもらいたいと思います。」

司会「皆さん、本日はありがとうございました。」



◆編集後記◆

参加者のお話を聞いて、行政等のPTの働き方がよくイメージできました。そして、地域事情も個性も異なる皆さんですが、「地域の課題に真摯に向き合っている」姿勢は共通していることがとても印象的でした！これは過疎地で勤務するリハ職にとって、所属業種に関わらず非常に重要なことであると再認識しました。今後は他領域、またはOTやSTも加えたインタビューを企画する予定です。お問い合わせは渡部 k.watanabe@hcfm.jp までお願い致します。

学術大会のお知らせ

道北支部からのお知らせ

第5回 道北理学療法学術大会

地域における
理学療法士のつながり

- 急性期から生活期まで、
本当に求められる連携を考える -



日時

2023年2月4日(土) 13:00 ~ 17:40



会場

WEB開催: zoom



基調講演

地域における理学療法士のつながり
- 急性期から生活期まで、本当に求められる連携を考える -

講師 水本 淳 氏 北海道文教大学人間科学部理学療法学科 講師



シンポジウム

※ 2テーマ同時進行のため、どちらか一方でご参加となります

1 理学療法士間における連携を再考する
- 各病期の現状と課題、未来に向けて -

2 地域におけるスポーツの支援体制

シンポジスト 角井 孝多 氏

旭川赤十字病院

堀部 憲 氏

旭川リハビリテーション病院

田島 千草 氏

森山メモリアル病院指定訪問リハビリテーション事業所

コメンテーター 水本 淳 氏

北海道文教大学人間科学部理学療法学科

ミニレクチャー 須藤 宗 氏

青森県立中央病院

シンポジスト 岩瀧 廣大 氏

森山メモリアル病院通所リハビリテーション事業所



一般演題

学会ホームページで演題を事前に閲覧し、コメントすることができます

合計 10 演題予定



お申込み

詳細は北海道理学療法士会 道北支部ホームページをご確認下さい

セミナー番号: 103608 / 定員: 300名 / 参加費: 3000円 (非会員4500円)



大会長 | 内藤 考洋 (旭川リハビリテーション病院) 準備委員長 | 佐藤 弘也 (旭川医科大学病院)

お問い合わせ先 | 研修会担当者 佐藤 弘也 | hiroya1121sato@yahoo.co.jp

会員の皆様へ

日本理学療法士協会HP におけるマイページについて

- ・ **所属施設等、登録情報の再確認**
→現在の職場と異なるケースが散見されます
- ・ **登録メールアドレスの確認**
→キャリアメールアドレス以外での登録を

再度ご確認お願い申し上げます。

第4回道北支部役員会議議事録

開催日付 令和4年11月7日(月)	時間 19:00~20:30	場所 Web会議 (Zoom使用)
----------------------	-------------------	----------------------

Webによる出席者(14名)
齊藤浩平、千葉恒、内藤考洋、塚田鉄平、近藤伸英、岩瀧廣大、高木一人、大西正剛、大河原和也、森谷大輔、塚本健太、佐野良則、安齊千善、片野真奈未

議題1: 支部長報告

I. 第4回理事会の内容を一部抜粋

1. 開催日時: 令和4年10月29日(土) 13:30~16:30

5. 決議事項

- 1) 支部役員の退任及び就任について
- 2) 新入会及び復会の承認について
- 3) 名義後援の承認について

6. 報告事項

- 1) 業務執行理事及び各局活動の報告(第2四半期報告)と上半期監査報告について
⇒ (教育局) 各施設が実施する「士会承認研修会」66件、「士会承認症例検討会」39件、
生涯学習システムの説明をWEBで今後実施予定。
- 2) 臨床実習指導者講習会の開催状況と次年度予定について
⇒ 2023年度年5回予定
- 3) 令和5年度の理事会等の日程について
- 4) 公益社団法人日本理学療法士協会感謝状の受賞について
- 5) 札幌支部の再編に関する特別委員会の進捗状況について
- 6) 事業報告書及び旅費諸手当申請書の時間表記について
⇒ 時間表記が「事業実施時間」と「スタッフの稼働時間」に分かれる、
詳細は会計部長にも報告。
- 7) 事務局職員の異動について
⇒ 福嶋篤氏 非常勤⇒常勤
- 8) 名義後援承認団体の後援等開催報告について
- 9) 名義後援事業の実施報告について
- 10) 各種会議等報告
日本理学療法士協会 都道府県士会広報担当者会議(近藤社会局長)
広報 ⇒ ○非会員の無料研修会、○初年度無料、○オンデマンド配信、○OHPの充実
日本理学療法士協会 組織運営協議会(柿澤会長)
日本理学療法士協会 全国職能関連担当者会議(千葉職能局長)
- 11) 各種会議等出席予定

12) 会員異動(令和4年8月1日~令和3年9月30日受理分)

総会員数 7,122名(在会 6,041名、休会:1,081名)

13) ニューレジリエンスフォーラム北海道ブロック札幌大会呼びかけ人会について

7. 審議事項

- 1) 選挙管理規程、代議員選任規程、理事及び監事選任規程の一部改正について
⇒ 合意に至らず臨時理事会を開催し、討議をおこなう。

II. 検討事項

1. 生涯学習システムの問題について ご意見があれば教育局へ
2. 事務局から「事業名」について、協会への申請テーマと道士会把握テーマが異なり手間がかかる。
⇒ 事前に詳細な事業名がわかったら事務局まで連絡がほしいとのこと。
詳細に関しては再度、事務局に確認。
3. 全体集会の在り方について
⇒ ここ数年は役員以外の参加者がほとんどいない状態。今年度も含めて開催内容の再検討が必要である。次年度以降は事業名を変更して何か研修会のような企画でも良いのでは。

議題2: 事務局報告

I. 公文書について

道士会事務局に上半期分のすべての提出を済み。
数点の指摘を受けたが上半期については書類受領となった。

II. 公文書作成方法について

事務局から指摘を受けた点を踏まえて、支部内で公文書作成方法について事務局より提案。
下半期以降に公文書作成の際は提案内容に沿って作成する。

議題3: 学術部報告

I. 第3四半期事業報告

- ・開催事業なし

II. 第3、4四半期事業予定

- ・症例検討会: 12月16日 金曜日
E-1: 三愛病院 関口瑞穂先生
E-2: 旭川赤十字病院 秋田祥吾先生
旭川赤十字病院 原田柊野先生
11月2日現在で、E-1: 54名、E-2: 65名の申込みです。

- ・第1回支部研修会: 1月28日 土曜日 13:30~16:30
- ・第5回道北理学療法学会: 2月4日 土曜日 13:00~17:40
- ・第2回支部研修会: 2月23日 木曜日 09:00~12:00

III. 実地研修について

- ・紐づけに関して：紐づけする管理者は登録理学療法士であれば誰でもOK。
ただし、協会ガイドラインや各施設ガイドラインに準じて学習目標の管理をちゃんとしてもらえる方である必要がある。

IV. 次年度の予定

- ・支部研修会5回、地方研修会1回、研究支援研修1回、第6回道北理学療法学会、第3回道北支部理学療法学会、症例検討会2回を予定。
第6回のメンバーは未定。予算は組んだが、実施するかも未定。

V. 検討事項

- ・症例検討のサマリーシートの作成方法のレクチャーについて。
理想～各施設でプレ発表→上司による添削→座長とのすり合わせ→発表
現実～プレ発表、上司による添削なし→運営・座長での添削、すり合わせ→発表
施設のスタッフ人数や上司の働きに差がある可能性があり、「発表に前向きになれない」環境がゼロではないと思われる。
- ・支部研修会で「サマリーの書き方」を開催しようか検討中。症例検討会の申込者に対し、事前に無料開催。症例検討会とは別枠で有料研修会として開催なども検討中。

議題4：社会部報告

I. 活動報告

- 士別：道北支部健康安全運転講座（ダイハツ事業）
日時：2022/9/7 場所：士別いきいき健康センター
参加者：15名前後 派遣PT：2名
- 旭川：道北支部健康安全運転講座（ダイハツ事業）
日時：2022/9/22 場所：北北海道ダイハツ北彩都店
参加者：9名 派遣PT：2名
- 社会局・支部社会部合同会議
日時：2022/9/10 場所：札幌医療リハビリ専門学校
内容：各支部の事業報告、令和5年度の事業予定（新規事業なし、話題は災害リハ）
- 災害リハビリテーション支援部研修会
日時：2022/9/10 場所：札幌医療リハビリ専門学校
内容：支援ゲーム…仮想事例をもとに具体的な支援内容を考える
- 道北支部社会部・健康スポーツ部合同会議
日時：2022/10/21 場所：Zoom
内容：次年度の事業情報交換など

II. 次年度事業予定

- あさひかわ健康まつり
- あさひかわ健康まつり事前会議（実行委員会）
- ダイハツ事業（年2回、旭川・士別）
- 理学療法の日事業
- 道北支部社会部・健康スポーツ部合同会議（年2回予定）

III. 災害リハビリテーション研修会

- ・講師を招いて“災害リハビリテーションについて”をテーマとするもの
→各支部、災害リハ支援部Zoom上で行われているため、新鮮さはないのは実情。
- ・釧路市は、市と協定を結んでいるとのこと。
- ・道北支部として、どのようなスタンスで災害リハビリテーション（支援部）と関わっていくべきなのか
- ・道北支部（旭川）としても、行政と関われる関係性を作っていく方が良いのか・
→まずは支部内での災害リハの周知も必要。その後に旭川・近郊市町村の情報収集や関係作りを進めていくのが良いのでは。

議題5：健康スポーツ部報告

I. 健康スポーツ部の活動報告

① 健康スポーツ部合同会議

日時：令和4年9月28日(水)

会場：Web開催

内容：各支部の活動状況の確認、コロナ下でどのような活動ができるのか検討

② 第2回社会部・健康スポーツ部合同会議

日時：令和4年10月21日(金)

場所：Web開催

内容：令和4年度の下半期および令和5年度の事業、予算検討

公1：医療保健福祉事業

- ・道北支部社会部・健康スポーツ部合同会議（全2回5,9月）
- ・道北支部高野連メディカルサポート事業（旭川・名寄・宗谷/5～9月予定）
- ・道北支部第1回スポーツ支援事業（旭川ハーフマラソン/9月予定）
- ・道北支部第2回スポーツ支援事業（動画コンテンツ作製事業/10月予定）
コロナが継続して対面での活動が中止となる可能性があるため、Webでできるスポーツ支援方法を検討
- ・道北支部第3回スポーツ支援事業（バーサーロペットジャパン/3月予定）
- ・道北各種派遣推薦事業

公2：学術振興事業

- ・道北支部健康スポーツ部研修会（スポーツ支援スタッフ育成研修/11月）

II. 今後の健康スポーツ部の事業予定

① 旭川スポーツ推進委員 令和4年度中間事業報告会

日時：令和4年12月6日(火)18時～

会場：大雪クリスタルホール2F・レセプション室

② 旭川市スポーツ推進委員 第3回全体研修会

日時：令和4年12月17日(土)9時30分～

会場：旭川市神楽公民館2F・講堂

III. その他

- ① 令和5年2月4日開催予定の第5回道北学会でスポーツ支援をテーマにしたシンポジウムが企画されており準備中、2022年中に抄録の提出、2023年1月中旬頃にスライドの提出、2023年1月下旬に須藤先生(ミニレクチャー講師)、岩瀧、内藤大会長、佐藤準備委員長でオンラインでの簡単な打ち合わせ行う予定。
- ② シンポジウム開催に合わせて社会部、健康スポーツ部の紹介動画を石崎会員を中心に作製中。

議題6：職能部報告

I. 活動報告

1) 施設管理者ネットワークの登録推進

- ・道北支部登録状況（R.4/11/1 時点）
道北支部 49/110（登録率44.5%）
- ・今年度の目標50%登録まで6施設。
⇒ 引き続き支部内で声掛けをして施設管理者登録を進めていく。

2) 職能部会議について

- ① 開催日時 10月24日（月）19:30～21:00（部員3名参加）
- ② 内容
 - ・道士会職能局の業務についての情報共有（管理者育成推進部、地域包括ケア推進部）
 - ・R4職能部研修会について
 - ・次年度の事業計画

3) 研修会について

- ① 開催時期 12月10日（土）14:00～15:30（全体集会の前）
- ② テーマ 自分らしいキャリアデザインを考える ～多様性を活かした職場作り～
- ③ 講師 河合麻美氏（NPO法人ReMind）
- ④ 会場 web配信（スタッフは北都保健福祉専門学校より配信）
- ⑤ 参加者 14名（11/2時点）
- ⑥ ポイント 24 信頼関係の構築と協働作業の実践 1.5ポイント

II. 令和5年度の事業について

1) 第1回職能部研修会

- 開催時期：8～10月
テーマ：ワークライフバランスやキャリアデザインを考える上で大切な「家計管理」や「資産形成」に関する内容
講師（仮）：ファイナンシャル・プランナー（道士会顧問社労士の倉先生よりご紹介頂く）
参加費：無料
ポイント：申請なし（テーマに即したカリキュラムコードがないため）

2) 第2回職能部研修会

- 開催時期：12月（全体集会の前）
テーマ：中堅理学療法士のキャリアデザインに関する内容
講師（仮）：高木綾一氏（株式会社Work Shift代表取締役）、PT
参加費：無料
ポイント：申請予定
※今年度道東支部職能部研修会にて参加費無料でもポイント申請可能であった。
座談会：今年度同様、研修会前に座談会を開催し、中堅PTの悩みを情報交換するとともに、講師よりアドバイスをいただく

3) 職能部会議

- 日程：5月、10月の年2回開催
内容：支部事業の予定、実施状況の確認、課題の討議、総括ならびに次年度事業計画立案など

4) その他

- ① 施設管理者ネットワークの登録推進
 - ・来年度も新たな周知方法を模索しながら、登録推進を図る
- ② 装具相談窓口設立事業
 - ・生活期における装具難民や装具不適合者を救済していく仕組みづくり
 - ・義肢装具士会と連携
 - ・各支部や地区に基幹病院を配置し、その病院を中心に事業を進めていく
⇒ 職能部はデータベースの構築などで関与していく可能性あり

III. その他

- ・過疎地のリハビリテーション連絡会にて「過疎地で働く行政PT座談会」を実施
⇒ 参加した4市町村中3市町村が道北支部会員（中富良野町、猿払町、和寒町、京極町）
道北支部会員へ周知したく、道北支部ニュースへ掲載したい（鈴木広報部長の了承済み）

議題7：地区幹事報告

1) 上川中部地区

1. 上川中部地域リハビリテーション推進会議：総会→書面開催→今年度活動予定なし
作業部会→活動未定
2. 上川中部保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会：未定
◎次年度：1・2継続

2) 上川北部地区

1. ダイハツ工業との「健康安全運転講座」士別市（9/7）→参加者21名 スタッフ2名で対応
2. 高野連メディカルサポート
春：スタッフがコロナの影響で集まらず中止
夏・秋：大会は予定通り開催されたが高野連名寄支部から資金難の関係でPTの派遣は一旦中止
◎来年度：士別にて春・夏はある予定（稚内大会の時は派遣中止）
3. 上川北部地区POS勉強会：各施設の対応が異なるため、中止中
4. HARP：名寄保健所から1件問い合わせあり
5. 上川保健福祉医療圏地域連携推進会議 生活習慣病部会：文書会議10/17～
◎次年度：1・2・3・4・5 継続（予定）

3) 宗谷地区

1. 上川北部地区と共同で名寄市部高野連メディカルサポート→中止
◎次年度：道北支部研修会（予定）

4) 留萌地区

1. ZOOMによる留萌地区症例勉強会（9/14）
◎次年度：特になし。2024年には地区幹事留萌市立病院担当者へ交代。

5) 富良野地区

1. HARP活動が中心で毎月の地域ケア個別会議の参加や介護施設への訪問は定期的に継続できています。
地域からの介護予防活動も依頼はありますがコロナで最近では依頼件数も減少傾向です。
◎次年度：多施設間での症例報告も検討中

議題8：会計部報告

- ・会計報告は必ず2022年度版で報告してください。
- ・口座の変更があった場合は確認の連絡を致します。
- ・会計報告にはパスワード設定をお願い致します。

以上



道北支部 Instagram



道北支部 Face book

↑ **こちらもご確認ください** ↑

編集後記

日増しに寒さが身に染みるようになりましたが、皆様体調を崩されてはいませんか？

11月に入り、市内におきましても新型コロナウイルス感染が再拡大され、専用病床使用率70%前後で推移している現状のようです。日々対応されております医療スタッフの皆様には感謝の念に堪えません。インフルエンザとの同時流行も懸念されており、益々感染予防の徹底が必要となりますね。皆様くれぐれもご自愛頂けたらと思います。さて、時が経つのは早いもので、今年ももう残すこと1か月余りとなりました。今月号は今年最後の道北支部ニュースとなります。会員の皆様、今年もお楽しみ頂けましたでしょうか？来年も、皆様の臨床のお役に立つような情報を幅広くお伝えできればと思いますので、日々ご多忙かと思いますが、ほんの少しでもご覧頂けたら光栄です。

今年も1年間有難うございました。来年もどうぞよろしくお願ひ致します。良いお年をお迎えください。

広報 谷口絵梨佳